

学 科 紹 介



人生科学部

介護・健康学科

1年次

● 目的・概要

住み慣れた地域社会で暮らしたい。こうした多くの人が望む願いを実現しようと、国は今、自治体ごとに創意工夫を凝らした「地域包括ケアシステム」をつくり上げるという目標を掲げています。目標を実現するためには自治体、医療・介護の専門職だけでなく、地域住民の力が欠かせません。自分の住む地域にどんな問題があるか、それを解決するためにどう活動したらいいか。そのための具体的なヒントが満載の授業です。

学科長

村田 幸子

福祉ジャーナリスト
元NHK解説委員

● 講 師

矢 郷 恵 子

(有)毎日の生活研究所 代表取締役)ほか

● 曜日・時間 火曜日 14時～16時

● 1年次の授業計画

※内容や実施日等は一部変更になる場合もあります。

実施回	テーマ・概要
第1回	オリエンテーション 学科の目的・概要や1年間の流れを説明するとともに、講義の円滑な運営を図るため講師および学生同士の相互理解を深めます。
第2回 ┆ 第3回	高齢社会と向き合う 高齢社会が抱える諸問題を学ぶとともに、高齢者がいつまでも元気で生き生きと暮らしていくためには何が必要かを考えます。また、高齢者の健康とは何かを学びます。あわせて、介護保険制度の概要、区の取り組みなどを学びます。
第4回 ┆ 第7回	介護予防の重要性 介護保険制度施行後、介護予防の認知度・重要性が明確に高まりつつあります。ここでは、介護予防に有効なトレーニング、高齢者の低栄養予防および口腔ケアの重要性などについて学びます。

実施回	テーマ・概要
<p>第8回 ↓ 第29回</p>	<p>プロの住民になろう 「福祉は行政が行うもの」と考えていませんか。長い間、福祉施策は行政が独占してきました。行政がすべてを決め住民はそれに従うという関係で、いわば「与えられる福祉」でした。与えられる福祉から、住民自らが選択する福祉に変えるにはどうしたらいいでしょうか。「住民参加」をキーワードに、自分たちが暮らす地域社会は今どんな課題を抱えているか、そしてそれを解決するにはどうしたらいいかということを考え、自ら実行することが大切です。「要求するだけの住民」から「提案型の住民」に育つことができるかどうかについて考えていきます。</p> <p>主なテーマ</p> <p><認知症を地域で支える> ・地域に密着した小規模多機能な施設、グループホーム、認知症サポーターなど、地域ぐるみで認知症を支える取り組みからそのヒントを学びます。 ・判断能力が低下した人の権利をどのように社会で守れば良いのかを学びます。</p> <p><老いの住まい> ・住みなれた地域で住み続けることは、誰しもの願いです。ここでは特別養護老人ホーム、有料ホームやケアハウスなどの現状を学びます。</p> <p><看取りを考える></p> <p><地域デビュー> ・NPO法人の活動内容や社会的役割、可能性、魅力などについて学びます。 ・各地で行われている先駆的な市民活動にはどういうものがあるか、また、江戸川総合人生大学卒業生グループの活動など、数々の実例を学びます。</p>
<p>第30回</p>	<p>1年間のまとめ 1年間の学びを振り返るとともに、大学祭での学習成果の発表について意見交換を行います。</p>
<p>単位外</p>	<p>大学祭に向けて 学びの成果を発表する大学祭への取り組みについて話し合います。(学生のみ)</p>

介護・健康学科では、各専門機関の研究者や各地で先進的な取り組みをしている代表の方々にご講義いただいています。一部の先生方をご紹介します。

- ・ **大 淵 修 一** (東京都健康長寿医療センター高齢者健康増進事業支援室 研究部長)
- ・ **岡 田 雄 三** (社会福祉法人「夢のみずうみ村」 副代表)
- ・ **早 瀬 昇** (NPO法人日本NPOセンター 代表理事、大阪ボランティア協会 常務理事)
- ・ **永 田 久 美 子** (認知症介護研究・研修東京センター 研究部長)
- ・ **大 貫 正 男** (司法書士、公益社団法人成年後見センターリーガルサポート 元理事長)
- ・ **平 岩 千 代 子** (NPO法人シニアライフ情報センター 理事)
- ・ **河 田 珪 子** (支え合いの仕組みづくりアドバイザー)

● 2年次の目的・概要

2年次では、学びの成果を地域で活用していくために、推進者や実行者としてのスキルや実践力について学習します。情報収集やコミュニケーション能力を高める方法について学び、イベントの開催、卒業研究の発表を行います。